

# 京都市環境保全公社 屋上実験

平成18(2006)年3~12月

京都市下水道汚泥高温(約800℃)自然炭化物利用(芝生・花類)

(株)JFEリサイクルマネジメント協力



炭素研究開発型製造業  
株式会社大木工藝



大木工藝

常緑芝付きブロックを開発

今秋までに本格販売

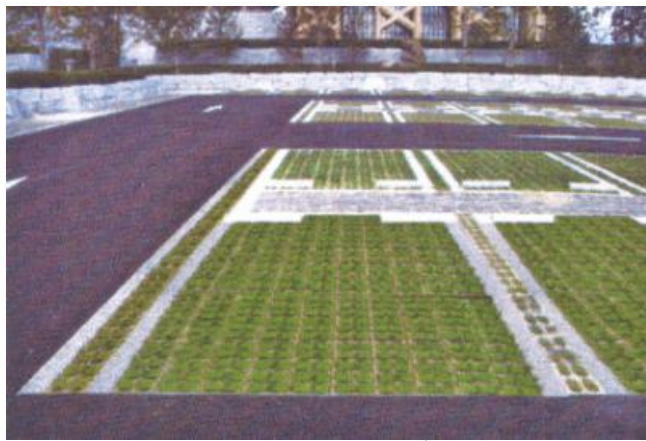
下水汚泥炭の利用拡大で

大木工藝(滋賀県大津市、大木武彦社長、☎077・549・1309)は「超保水 エコインターロッキングブロック」を開発、6月3―6日まで開催された「2008NEW環境展・東京(東京ビッグサイト東

ホール)に出展、注目を集めた。下水汚泥を炭化、ブロックとして有効利用し、常緑芝を植栽した基盤を合体させたユニークさが主な理由とみられる。生ごみなどを炭化した製品はこれまでもあったが、ある自治体から、再生製品の利用先が広がらず、困っていると聞いた。そこで、温暖化問題などをヒントに緑化基盤への利用に着目。常緑芝を植栽する

基盤は、レーヨン、ポリエステル混合不織布段ボール式の穴に、下水汚泥や生ごみ等を原料とした「エコ炭」や軽石、軽量化材を混入させた。また、特殊な保水ゲルを採用、給水性などメンテナンス面で優れた特長を持たせた。ブロックはエコ炭を15―20%混ぜたもの。同社は「弾力性があり、

自然の土のよう歩きやすく、学校のグラウンドやサッカー場などの緑化に最適」と話す。車道や歩道の基盤としても有効で、強度試験もクリア、懸念される重金属の溶出も国の試験をクリアしている。2006年には京都市環境保全公社の屋上に設置。2007年には、愛媛県武道館の駐車場(約600平方メートル)に設置、省エネ効果などのデータを収集中。現在、大手セネコンはじめ数社から引き合いが来ている。同社は今秋までに販売提携先と契約し、本格販売を始めた考え。



施工例(愛媛県武道館駐車場)